

2021 年度 日本緑化工学会賞 受賞対象の説明文書（講評）案

今年度の選考では、本年 2 月に刊行された学会誌 46 巻 3 号に受賞候補者の推薦依頼が掲載され、本年 5 月 13 日まで推薦を受け付けました。推薦された候補者について学会賞選考委員会で慎重な審議を行い、研究奨励賞 2 名、功績賞 1 名に授賞することとしました。

受賞理由は以下のとおりです。

研究奨励賞

受賞者：武井理臣 氏

題目：日本産ガマズミ属種子の形態生理的休眠の打破および早期発芽に関する研究

武井氏は日本産のガマズミ属種子を早期に発芽させるために、種子に対して温度、期間別の湿層処理を行うことで、休眠が打破される条件を明らかにしてきました。日本産ガマズミ属種子の休眠打破に必要な条件は、これまで明らかにされていませんでしたが、休眠を打破させ、播種から発芽までの期間を短縮できれば、苗木生産などの効率化を含め緑化植物としての利用機会が大幅に広がることが期待されます。これらのことから、武井氏への研究奨励賞授与を決定しました。

研究奨励賞

受賞者：西野文貴 氏

題目：シダ植物の増殖方法としての孢子発芽と前葉体成長に関する研究

西野氏はシダ植物の孢子発芽や前葉体成長に最適な温度・光・栄養条件について明らかにし、様々なシダ植物が緑化植物として利用展開できる可能性を示してきました。特に温度条件に関する研究では、種によって孢子発芽に適した湿度が異なることを明らかにし、光条件に関する研究では 1 日に必要な照射時間や生育に適した光の波長を明らかにしています。これらの知見は生態系に配慮した緑化や室内・壁面緑化へのシダ植物の積極的利用を促進する研究成果として期待されます。これらのことから、西野氏への研究奨励賞授与を決定しました。

功績賞

受賞者：森本幸裕 氏

題目：生物多様性に配慮した都市の緑化に関する研究および実践に関する功績

森本氏は、当初から植栽基盤に関する研究に取り組み、その成果は万博公園の森づくりなどに活かされています。また生物多様性に配慮した森づくりのためのパッチ状間伐や森林表土の導入に関する研究や実践にも取り組まれました。その後は、ランドスケープ・エコロジーの概念を取り入れた都市生態系の実態解明に関する一連の研究や、京都市梅小路公園ビオトープ「いのちの森」の長期モニタリングによる都市自然の再生過程に関する研究、

さらに近年は、自然攪乱を許容するインフラ整備のあり方や、都市において雨庭を普及するための研究や実践にも取り組まれています。森本氏はこれまでに緑化分野を中心に多数の論文を発表され、『ミティゲーションー自然環境の保全・復元技術』や『最新 環境緑化学』など緑化に関する著作物も多く出版されています。また学会においては 2005～2007 年に学会長を務められた他、ICLEE の発足に尽力され学会運営や学会の国際化に大きく貢献されました。これらのことから、森本氏への功績賞授与を決定しました。